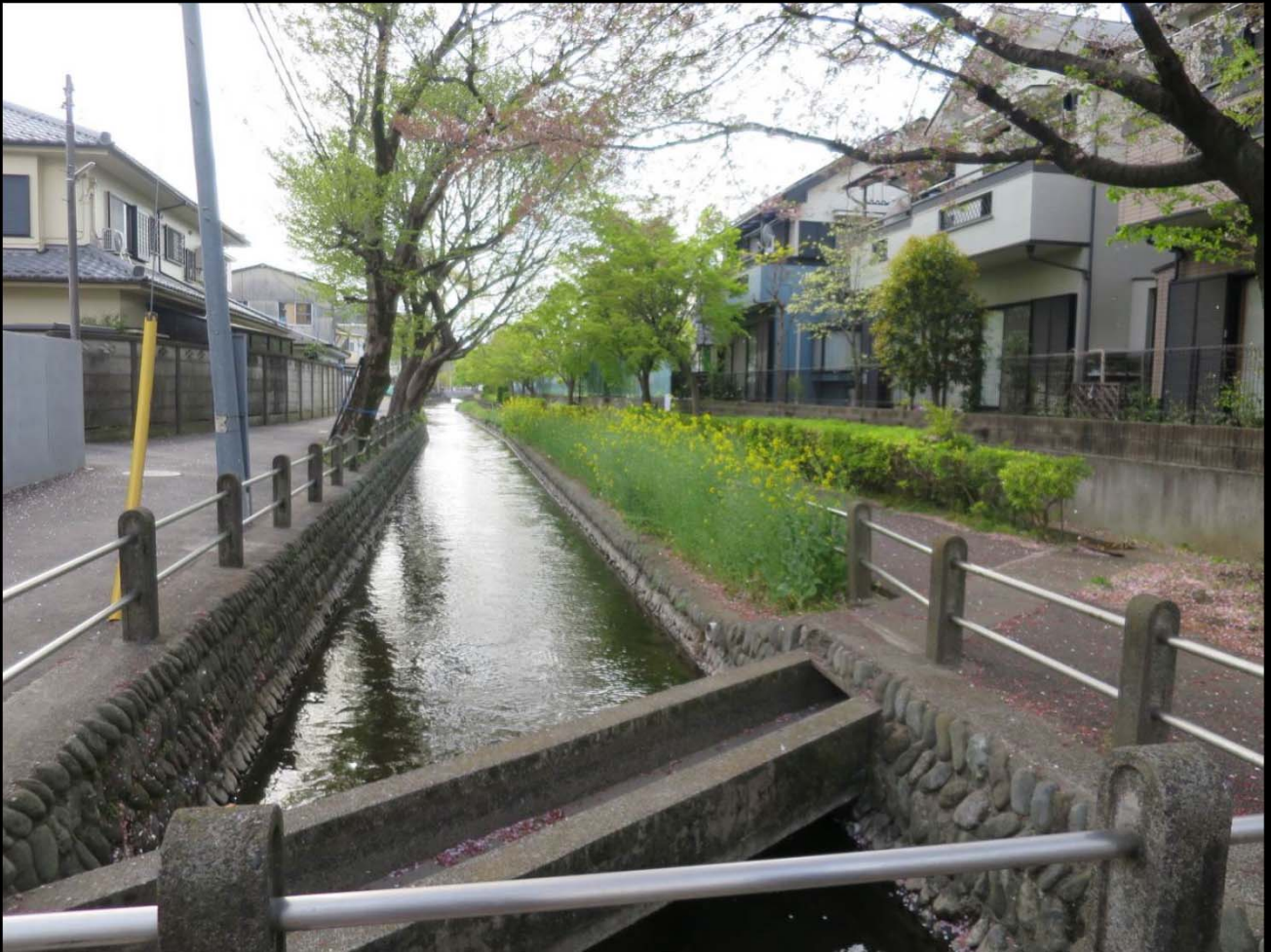


大丸親水公園： 用水300年の歴史を継承し今も変わらぬ用水の風景



撮影：2016年4月（東京都稲城市・大丸親水公園）

◆「光と清流と緑の小径」

“大丸親水公園”内の流れる大丸用水は、江戸時代元禄年間に多摩川の水を引いた延長10kmにまで及ぶ農業用水で、その後300年にわたり稲城の農耕地を潤してきました。現在は大丸親水公園として桜並木や菜の花の咲き誇る水と緑のネットワークとなっています。

◆用水の歴史を伝える文化財に

JR南武線の北側はかつて多摩川の河川敷でもあった砂礫低地で、梨栽培なども盛んです。水を制御するために、「伏越」や「掛樋（かけい）」などの水を取り入れる技術が使われています。

岡村幸二（JRRN会員）